

令和7年度 江戸川区立南篠崎小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・よく考え 進んで学ぶ子ども ・心身ともに たくましい子ども	・明るく思いやりのある子ども ・きまりを守り 責任を果たす子ども	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・組織で動く みんなで動く ・人を大切にする力 自分の考えをもつ力 自分の考えを表現する力 チャレンジする力 ・お互いが学び合える 相談し合える 互いを尊重し励まし合える教職員集団								
前年度までの本校の現状	成果	令和5年度に実施した江戸川区教育課題推進実践校「子どもの言葉で創る算数授業の実践」を令和6年度は校内研究として引き続き取り組んだ。その成果として、担任が18人中9人異動者・初任者だったが、児童の思考を大切にした指導が行えるようになった。3学期には区の算数スタンダード公開授業も引き受け、他校の先生方にも成果を見せることができた。	課題	教職員一人一人の力はあるが、共有する時間を設けることが難しく、共通理解・共通実践を行うのには不十分なところもあった。								
重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度	「中間」 自己（学校）評価(A~D)	「中間」 学校関係者評価(A~D)	「年度末」 自己（学校）評価 (A~D)	「年度末」 学校関係者評価 (A~D)	次年度に向けた改善案			
				9月 2月	評価 コメント	評価 コメント	評価 コメント	評価 コメント				
学力向上	○国語科を中心とした基礎学力の向上	・個別・グループ・全体共 有といった45分の授業の組み立て方の工夫 ・校内研究での実践 ・アンケートの実施	・「自分の考えをす すんで表現するこ とができる」「めあ をもち、すすんで学 習することができ る」でそれぞれ8 0%以上	B		B	校内研究授業等を通して、国語科を中 心とした基礎学力の向上には励んでい る。 児童への学校評価中間アンケートで は、前者が70%、後者が71%肯定的 回答だった。目標達成に向けて、児童が 主体的に取り組む授業を展開できるよ う、授業改善に励む。	B	学校側が立てた目標達成までには 至っていないが、多くの子どもたち が前向きに学習に取り組んでいるの で、引き続き頑張ってほしい。 保護者は理想が高いし、我が子を 見て判断するから、教員と比較する のは難しい。			
	○教師の授業力向上・ 指導法の工夫	・一人一台端末を活用した 授業の実践 ・アンケートの実施 ・授業観察 ・週案簿の提出	・「先生の授業はわ かりやすい」「タブ レット端末を使って 調べる・まとめる・ 伝え合う授業をして いる」でそれぞれ8 0%以上 ・学期に1回実施 ・毎週月曜日提出	A		A	児童への学校評価中間アン ケートでは、前者が88%、後 者が79%肯定的回答だった。 管理職による授業観察を学期 に1回はして、指導助言を行っ ている。 毎週月曜日の週案提出率はほ ぼ100%である。	A	先生方には多くの児童がいる 中、日頃から子どもたちの為に 力を尽くして下さり、感謝して いる。			
	○読書科の更なる充実	・読書科ノートの活用 ・発達段階に応じた問題を 発見し、本を通して集めた 情報を整理・分析して解決 するとともに自らの考えを まとめ・表現する学習の実 施	・読書科コンクール 提出率80%以上 ・「様々な本に親し み、すすんで読書を している」で80% 以上	C		C	児童への学校評価中間アン ケートは65%が肯定的回答 だった。朝読書及び1単位時間 の読書科の時間について、来年 度に向けて再度計画を見直す必 要がある。	B	子どもたちが関心を持てるよ うな本の選書を慎重にお願いし たい。 漫画本からも学ぶことがある ことを理解していただきたい。 電子書籍等も含めると評価も 変わるものではないか。			
体力向上	○個のめあてを明確に した授業実践	・めあてカードの実践 ・アンケートの実施	・「自分からすすん で体をきたえるこ とができる」で80% 以上	B		B	学校評価中間アンケートは74%が肯 定的回答だった。GW明けから10月上 旬まで暑い日が続き、外体育や外遊びが できない日も多かった。	B	暑すぎる天候など、自然現象 にはかなわない面がある。			
	○運動に親しむ機会の 実践	・なわとびカード・マラソ ンカード等の活用 ・学期に1回、なわとび集 会の実施	・取組カードの活用 率80%以上	A		A	具体的な取組内容に記載したこ とは実践できている。取組カードは全 学年で使用しているので、後期も引 き続き実践していく。	A	天候等も考えないといけない 中、子どもたちが意欲的になる よう取組カード等を用意して下 さり、感謝している。			
	○健康な生活	・年間を通して水筒の持参 の推奨 ・暑さ指数のチェック ・お便りを通して連絡	・月1回給食便りと 保健便りの発行	A		A	具体的な取組内容に記載したこ とは実 践できている。暑い時期は暑さ指 数を確 認し、外遊びの可否を毎回養護教諭が校 内放送した。給食便りと保健便りも毎月 発行している。	A	水筒の持参はいいことだと思 う。 給食もおいしいと聞いてい る。			
実現 教育 に 共 生 の	○人権教育の推進	・道徳の授業やなかよし班 活動を通して、自分と異 なる意見や立場の尊重 ・アンケートの実施	・道徳の授業とな かよし班活動はそれ ぞれ年3回実施 ・「誰とでも仲良く 遊んだり協力したり して仕事をすること ができる」で80% 以上	A		A	週1時間の道徳の授業や道徳 授業地区公開講座等を通して、 児童に互いの立場を尊重し合え るような授業を実践している。 学校評価中間アンケートでは 84%が肯定的回答だった。 なかよし班活動も年間計画に 沿って行っている。	A	多様化が進む中、目標達成は すごいこと。今後も大人も子 どもも一人ひとりを大切にできる ように。			

△向会 推けた の会 進	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルーム対応を全教員で分担し、学校全体で支援体制を整える	・分担表を作成し実施率100%	B		B	分担表を作成したり、対応の仕方を確認したりしているが、実施率100%には至っていないので、共通理解共通実践を目指す。	A	引き続き個に応じた対応をお願いします。					
	○副籍交流の実施	・都立鹿本学園及び対象家庭との交流の仕方の打ち合わせに応じた実施	・各学期1回以上の実施(交流方法は各々異なる)	A		A	コーディネーター、都立鹿本学園及び対象家庭の第三者で連絡を取り合い、計画的に実践している。	A	人権尊重の面からもこのような交流はいいこと。交流や学び合いがプラスに働いてほしい。					
不登校・いじめ対応の充実	○不登校未然防止	・SCやSSW等の関係諸機関との連携 ・生活指導夕会で担当や担任からの報告	・理由不明の欠席が○	B		B	SCやSSW等の関係諸機関と関わっているが、連携の点では改善が必要な点もある。 生活指導夕会での情報共有や理由不明の欠席家庭への電話連絡および家庭訪問は実践している。	B	不登校児童が一人でも減るように引き続きお願いします。					
	○いじめ未然防止	・アンケートの実施 ・年3回、いじめ等に関する道徳授業の実施	・「友達の失敗を励ますことができる」「いじめ等があった時は先生に相談することができる」各々で80%以上	B		B	年3回の道徳授業の実施に加え、必要に応じて、朝の会や帰りの会等でも、いじめは許されない行為といふことを伝えている。 学校評価中間アンケートでは前者が86%、後者が77%肯定的回答だった。	B	たくさんの子どもたちがいるから、把握等で難しい時もあるかもしれないが、不登校と同様に、引き続きお願いします。					
	○一人一台端末を用いた心の健康観察	・L-Gate「毎日の記録」の実施	・実施率90%以上	A		A	2~6年生は6月より始めた。夏休み最後の1週間も実施してスムーズに2学期が始められるようにした。 1年生は9月から始めた。	A	一人一台端末を授業以外でも活用していてすばらしい。					
学校(地域社会)開かれた実現	○学校公開、保護者会、個人面談、運動会、展覧会等学校行事への参観	・1か月に1回程度学校に足を運ぶ機会の設定 ・アンケートの実施	・「日頃の教育活動の様子などについて保護者会や学校たより等でわかりやすく伝えていると思う」で80%以上	A		A	具体的な取組目標に記載したことは実践できている。学校評価中間アンケートでは81%が肯定的回答だったので、公開や保護者会等の中身を充実させさらなる向上を目指す。	B	昔より保護者は学校との関わりが薄くなっているように感じる場面もあるので、保護者の方々には1回の機会を大事にしていただきたい。					
	○学校ホームページやtetoru配信の充実	・学校ホームページを定期的に更新 ・学校便りと学年便りを1本化してtetoru配信	・学校日記は週2回程度更新を行う。 ・お便りのtetoru配信は2学期から毎月実施	A		A	学校ホームページはほぼ毎日更新している。 学校便りは9月からtetoru配信している。学校便りと学年便りの1本化は10月より始めた。	A	保護者が学校に足を運ぶ機会が少くななくてもHP等で様子がわかるることは助かる。					
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、評議員、教職員へのアンケート調査の実施	・アンケートは中間と最終の年2回実施 ・児童と評議員、教職員は100%実施 ・保護者は80%以上の提出	C		C	アンケートの実施は行ったが、回答率は教員96%、保護者58%、児童94%と、いずれも目標達成には至らなかつた。2回目実施の時は実施期間にゆとりをもったり、アナウンスをこまめに行ったりする。	B	1回目の学校評議員会の時もこの紙を見せてくれば、具体的に説明してくれたので、学校の取組等がわかる。					
教育特色のある展開	○働き方改革の推進	・年休等を取得しやすい職場環境 ・見通しをもった仕事の実践	・年休取得15~20日程度の教職員が80%以上 ・毎月の時間外勤務45時間以内が90%以上	B		B	年休取得はほぼ全ての教職員が年間を見通して、計画的に取得できている。 時間外勤務45時間以内を90%以上の教員が達成できたのは6月のみだった。SSS等の効果的な活用を推奨し、事務的な業務を中心に教員の働き方改革を後押してくる職場環境にする。	B	先生方が多くの時間、サービス残業をしている状況を、知らない保護者が多いと思う。当たり前に年休を取れるような環境になっていただきたい。					
	○金管バンドや三味線等の取組	・金管バンドや三味線の活動を通して本校の伝統文化の継承を進める ・ホームページ等で紹介	・学期に1回、学校便りやHP等で紹介する。	B		B	本校の教員に加えて、外部講師にも依頼して、金管バンドと三味線に取り組んでいる。	B	外部の方とも連携して子どもを育てるのはいいことだと思う。					
	○科学センター、農園活動、図書ボランティア等と連携した教育活動の実施	・科学センター：4~6年生の希望者を対象に実施 ・農園：低学年を中心に植物の種まき、麦の脱穀等 ・図書ボラ：朝の読み聞かせ、本の紹介等	・「学校に関わる地域の人とから様なことを教わったり活動したりしている」で80%以上 ・学期に1回、学校便りやHP等で紹介する。	C		C	学校評価中間アンケートでは保護者が59%、児童が56%肯定的回答だった。科学センター、農園、図書ボラ、いずれも充実した活動を行っているが、周知等の面で不十分だったと思われる。掲示物やお便り等で全体に発信し、活動の様子を広めていく。	B	外部の方と連携して子供を育てるのはいいことだと思う。多くの方が周知するよう、引き続きお願いしたい。					